

各 位

上場会社名 株式会社 ニックス
 代表者 代表取締役社長 青木 伸一
 (コード番号 4243)
 問合せ先責任者 取締役管理本部長 先本 孝志
 (TEL 045-221-2001)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年9月期通期連結業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,150	△370	△415	△420	△182.73
今回発表予想(B)	2,860	△580	△590	△590	△256.69
増減額(B-A)	△290	△210	△175	△170	
増減率(%)	△9.2	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	4,650	154	147	81	35.83

平成21年9月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年10月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,000	△375	△420	△420	△182.73
今回発表予想(B)	2,720	△560	△570	△570	△247.99
増減額(B-A)	△280	△185	△150	△150	
増減率(%)	△9.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成20年9月期)	4,426	103	85	31	13.86

修正の理由

当社グループの主要販売先である事務機器業界では第3四半期連結累計期間以降、内需不振などによる大幅な減産・在庫削減調整が一巡し底入れの兆しが見えるものの、海外における現地調達化やコストダウン競争に加え、競合他社の参入など厳しい事業環境が継続しました。また、生産設備業界におきましては設備投資意欲の低下が長期化しており、生産設備治具関連製品の売上も当初の計画を下回る状況で推移しました。自動車業界では国内外市場向けの販売が急激に減少する厳しい環境が継続しました。さらに、売上伸長を期待した住宅設備業界では新設住宅着工戸数が大きく伸び悩み深刻な状況となりました。

通期連結累計期間につきましても、事務機器業界主要顧客では在庫削減調整は一巡したものの、引き続き主要機器の売上回復には慎重な姿勢をみせており、そのため法人向け当社関連商品の需要回復のスピードは鈍化するものと推測しております。この結果、事務機器業界向け工業用プラスチックファスナーの売上は前回予想を大きく下回り130百万円減となる見込であります。また、生産設備業界におきましても工場休業などによる生産活動の低迷が続いており、当社の主要法人顧客における設備投資回復には更に時間を要する環境が継続するものと想定しております。このため、生産設備治具関連製品の売上は前回予想比68百万円減となる見込であります。自動車業界では日本国内における在庫調整がほぼ終了したことに加え、環境対応車などの新車購入における減税措置等により自動車販売が増加傾向に転じつつあります。しかしながら、海外市況低迷による輸出減速等の要因があり予断を許さない状況にあると想定しております。このため、自動車業界向けプラスチック精密部品の売上は前回予想比23百万円減となる見込であります。また、住宅設備業界においては新設住宅着工戸数が依然低調であり、「金属のプラスチック化製品」であるNIXAM配管継手ほかの製品の売上は前回予想比67百万円減を想定しております。この結果、通期連結累計期間全体の売上は前回予想比290百万円減となる見込であります。

利益面では上述の売上高の大幅な減少に伴う売上総利益の減少に加え、第2四半期における1米ドル＝90円を割り込むなど予想を超える円高の進行による為替差損の発生、原油価格低下歯止めによるプラスチック原料価格の高止まりなど売上総利益率の悪化要因が重なりました。さらに新規顧客の拡大、役員報酬や人件費等をはじめ固定費の削減を進めてまいりましたが、通期連結累計期間における営業利益は前回予想比210百万円減、同経常利益は175百万円減、同当期純利益は170百万円減となる見込みであります。また、第4四半期連結会計期間の為替レートにつきましては、1米ドル＝95円を想定しております。

以上の状況を踏まえ、連結・個別ともに前回発表の通期業績予想を修正いたします。

(注)上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想と異なる結果となる可能性があります。

以上